

静岡県の電気職 Q&A

Q：静岡県の電気職とはどんな職種ですか

A：静岡県の行政職員として所属する部署で広く業務を行います。その中には技術職として電気に関わる業務だけでなく、法規確認、事務手続き、県民対応のような業務もあります。

電気職の主な業務として、大きく分けると3つの分野があります。

- ① 公共建築物の電気設備や通信設備の建設及び維持管理
- ② 技術専門校における職業訓練指導
- ③ 上下水道施設の建設及び維持管理

これらの職場で、電気に関して直接または間接的に携わりながら静岡県の発展と県民生活を支える仕事に励んでいます。

なお、電気職の職員は、経営管理部、交通基盤部、企業局など様々な所属で活躍しています。

Q：電気職の具体的な業務内容について教えてください

A：上記の3分野の代表的な業務について紹介します。

- ① 県庁舎、県立学校、警察署など県民に密着した公共建築物を整備するにあたって、受変電設備や照明・コンセント設備、情報通信設備などの電気設備に関して、設計から工事までのマネジメントを行います。

設備を使用する方の立場に立ち、要望を反映させるために関係者と折衝・調整し、また設計や図面どおりにできているかを工事監理・監督する業務を行います。

用途や基準を考慮し過不足のない設備を選定するとともに、使いやすさ、省エネなども含めて、県民の方に喜ばれる公共建築物を目指して建設工事、施設管理をしています。

- ②公共職業訓練指導員として、就職を目指す方の技能向上のサポートをし、県内の人材育成と産業の活性化を目指しています。

電気工事科では、電気工事士資格取得を目標として、配管・配線工事の実習指導や電気工学の基礎知識を養うための講義などを行います。

- ③上水道や工業用水を供給する浄水場や下水道処理施設において、専門のメンテナンス業者を指導監督し、電気設備の点検・修繕などを行い、施設を安定

的に操業します。

地域の生活に無くてはならないインフラ設備をきちんと稼働させるとともに、電気主任技術者として電気設備の保安管理、施設管理者として省エネルギー対策に取り組みます。

Q：電気工学を専攻していますが、大学で学んだことを活かすことができますか

A：行政機関ですので、ものづくりをしている電機メーカーなどの研究・設計・開発職のように専門性を強く活かさないこともあります。システムとして機能する電気設備の理解、技術的な問題点や新基準・新技術への対応など、電気工学の知識は必ず役に立ちます。

なお、採用試験には専門科目がありますので、大学で学んだことが必要になります。

Q：電気の職員はどのような出身学部・学科ですか

A：工学部の電気工学科以外にも電子工学科、通信工学科、情報工学科の他、理学部など多くの学部・学科の出身者がいます。

Q：市役所や町役場の電気職（設備職）とはどのような点が違いますか

A：県内全域が対象ですので、市町が扱っていない広域に影響のある事業や、県を代表する建築物や施設の建設、管理など、スケールの大きな業務に携わることもできます。

Q：県外の出身者ですが、県外の出身者も採用していますか。また、採用試験で不利になりませんか

A：現職の職員にも県外出身者が複数在職しています。

県外出身者も県内出身者も採用試験において差はありません。県外出身であることが不利になることはありません。

Q：静岡県の電気職は何人ぐらいいるのですか

A：令和5年4月1日現在で81人の電気職の職員がいます。

他の職種に比べると人数は少ないですが、電気職員が担当している各業務は繋がりが強いと感じています。

電気職の職員が多く配属される部署では、先輩のもとで仕事を覚えることがで

きます。また、電気職員が少人数の部署では他の職種の職員から、その専門性を頼りにされることとなります。

Q：静岡県採用後の研修はどのようなものがありますか。

A：静岡県では、すべての職員を対象としたキャリア研修を実施しています。人（職員）と組織の意向がマッチしたキャリア形成の実現を目指しています。新規採用職員には、身近な先輩職員が業務の基本的な知識などについて相談に乗ってくれるチューター制度があるので、安心して県職員としてスタートできます。また、技術職として必要な知識や技術を研修する場として、実務に直結した研修を部又は課単位で実施しています。これらの研修と普段の業務を通じたOJTによりキャリアを積んでいくことが出来ます。

Q：試験対策は何を勉強すればよいですか

A：県政に限らず、幅広く静岡県について知っていただくことが大切です。民間でいえば企業研究に似ているのかもしれませんが、せっかくの機会ですから、静岡県で働くイメージを抱いていてください。そのためには、事前に新聞やニュース等から静岡県に関する情報を集めることが、とても重要だと思います。そういった情報から、実際の県職員の仕事がわかると、自分の将来像が見えてくると思います。なにより、試験では静岡県の時事問題に触れるような部分もありますので、情報収集は必須です。また専門知識についてですが、求められるレベルは、一般的な電気エンジニアの新卒採用試験と同程度と考えられます。電気工学を中心に学生時代を通じて学んだことを、しっかりと復習していただくことがよいのではないのでしょうか。

Q：先輩の声を聞かせてください

A：静岡県ホームページに先輩職員の声が掲載されていますので、ご覧ください。
http://www.pref.shizuoka.jp/zinzi/employ/info/senior_ichiran.html

Q：職場見学・職員訪問（OBOG 訪問）はできますか

A：毎年度インターンシップを実施していますので、希望される方は静岡県のホームページの案内をご覧ください。

<http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-020/intern.html>

また、インターンシップとは別に希望があれば、別紙リーフレットに記載の問い合わせ先に連絡いただければ、可能な範囲で職場見学・職員訪問等に対応します。

Q：電気主任技術者の資格を持っていないのですが受験できますか

A：電気職の採用に関しては、電気主任技術者の資格は必須ではありません。

上下水道施設等の維持管理業務では、電気主任技術者免状が必要となる場合がありますが、若手職員は資格を持つ先輩職員のもとで業務を行い、経験や知識を得ながら積極的に資格取得に挑戦しています。また、実務経験を積んで資格を取得することも可能です。

Q：女性の電気職の方はいますか

A：電気職に採用されて活躍している女性職員がいます。

少数ですが、電気職でも女性ならではの視点を持って働く方がますます増えていくことを期待しています。

なお、行政職、土木職、建築職等には多くの女性職員が在籍しており、女性職員が活躍できる環境が整っています。